

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン

ODNJP 会報 No.3

2021年7月21日発行

Open Dialogue Network Japan

Newsletter No.3 (July 21, 2021)

01. 会報について	p. 1
02. オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン規約	p. 1~2
03. 運営委員会名簿	p. 2~3
04. 沿革	p. 3
05. 総会報告	p. 4
06. 運営委員会報告	p. 5
07. 主催イベント報告	p. 6~10
08. トレーニングコース、フォローアップコース（イベント）、ワークショップ	p. 12~14
09. 人権とりかばりーを促進するアプローチとしてのオープンダイアログ （WHO Guidance on community mental health services について）	p. 14
10. カリ・ヴァルタネン「オープンダイアログモデルのケア実践における精神科医の 役割」（翻訳）※オフライン版のみ	p. 15~22
11. メッセージ	p. 23

01 会報について

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン (ODNJP) 会報 No.3 をお届けします。2018 年 8 月に会報 No.2 をお届けしてから早くも 3 年弱の月日が経ちました。この間、昨年来のコロナ禍の影響を受けて ODNJP のイベントも大きな影響を受けました。オープンダイアログのトレーニングコース（対話実践の基礎コース）第 2 期は途中から対面式での実施を断念せざるを得ず、オンラインでの実施に切り替えて対応しました。また他のイベントや総会も同様にオンライン開催となりました。かかる困難な状況下で、日本における対話実践を途絶えさせることなく継続していく方針のもと、可能な範囲で継続的に活動を行って参りました。オンライン形式による新たな対話のかたちを模索する機会にもなりましたし、オンラインならではのつながりや出会い方もありました。今回の会報 No.3 では、この間に ODNJP が工夫を重ねながら実施してきた各イベントの報告を中心にまとめました。今後も ODNJP の活動を記録し、多くの方に知って頂けるように広報委員会として会報の定期発行に努めて参ります。

文責 ODNJP 広報委員 笹原信一郎、大谷保和

02 オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン規約

2016 年 7 月 9 日制定
2017 年 12 月 10 日改正
2019 年 6 月 2 日改正
2021 年 6 月 27 日改正

(名称と所在地)

第 1 条 本ネットワークは「オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン」と称し、英語名は Open Dialogue Network Japan とする。略称は ODNJP とし、2015 年 3 月 30 日を設立日とする。

第 2 条 本ネットワークは所在地を、〒105-0013 東京都港区浜松町 2 丁目 2 番 15 号 浜松町ダイヤビル 2F に置く。

(目的)

第 3 条 本ネットワークはフィンランド西ラップランド地方で開発されてきた精神科医療の包括的なアプローチであるオープンダイアログに関する情報提供や研修などを行い、日本の精神科医療におけるオープンダイアログの普及や実践支援などの活動を行うことを目的とする。

第 4 条 前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) フィンランドおよび他国のオープンダイアログに関する組織との連携
- (2) セミナー、講演会、トレーニングコース、ワークショップなどの実施
- (3) 会報の発行
- (4) その他必要とされる事業

(会員)

第 5 条 会員種別は正会員（個人）、賛助会員（個人または団体）、名誉会員とする。

第 6 条 本ネットワークへの入退会の手続き方法は運営委員会が定める。

第 7 条 正会員は総会に出席する権利と総会における議決権を持つ。

(会費)

第 8 条 正会員の年会費は 6,000 円とし、賛助会員の年会費は 1 口 (3,000 円) 以上とする。名誉会員からは年会費は徴収しない。年会費の有効期限は支払い時期にかかわらず、会計年度末までとする。

運営組織)

第 9 条 本ネットワークに共同代表若干名、運営委員 20 名程度、事務局長 1 名をおく。

第 10 条 共同代表、運営委員、事務局長は運営委員会を構成し、運営委員会は本ネットワークの運営に関わる重要事項の決定を行う。

第 11 条 共同代表は本ネットワークを代表し、事務局長は事務局を統括する。共同代表および事務局長は本ネットワークの日常業務や緊急に決定が必要な事項に関する決定を行う。事務局は会費およびセミナー等に関する会計業務などを行う。

(役員選出方法と任期)

第 13 条 運営委員は年一回開催される通常総会において正会員より選出する。(必要に応じて臨時総会においても運営委員を選出する。) 共同代表、事務局長は運営委員の互選により選出する。運営委員・共同代表・事務局長の任期は原則として 1 年 (7 月 1 日より翌年の 6 月 30 日まで) とし、再任を妨げない。

(総会)

第 14 条 通常総会は年 1 回開催することとし、必要に応じて臨時総会を開催する。

第 15 条 総会は運営委員の選出のほか、規約の改正、次年度の活動基本方針の決定など、本ネットワークの方向性に関わる重要事項の決定を行う。

第 16 条 運営委員会は通常総会において、前回の通常総会からの期間の活動経過報告および会計報告を行う。

第 17 条 総会の成立要件は正会員出席者数および正会員委任状提出者数が正会員数の過半数を超えることとする。なお総会の議決権をもち、総会の成立要件の基礎数としてカウントされる正会員は、総会が行われる日の 1 か月前の時点で正会員として登録している者とする。

第 18 条 予算の作成、予算の執行および決算に関する事項については、総会などの議決に基づき行われる。

第 19 条 総会等における議決は多数決の原則により行われる。

附則 本規約は 2016 年 6 月 18 日に開催された第一回総会の決定にもとづき、運営委員会での審議を経て定められたものであり、2016 年 7 月 10 日より適用する。

附則 2 本ネットワークの会計年度は 4 月 1 日より 3 月 31 日までとする。

附則 3 2017 年 12 月 10 日に開催された第一回臨時総会の決定にもとづき、この規程の一部を改訂し、2017 年 12 月 18 日から適用する。

附則 4 2019 年 6 月 2 日に開催された第 4 回総会の決定にもとづき、この規定の一部を改訂し、2019 年 7 月 1 日から適用する。

附則 5 2021 年 6 月 27 日に開催された第 6 回総会の決定にもとづき、この規約の一部を改訂し、2021 年 7 月 1 日から適用する。

03

運営委員会名簿

2019 年度

【共同代表】石原 孝二 斎藤 環 高木 俊介

【運営委員】石橋 佐枝子 岩波 孝穂 岩本 雄次
植村 太郎 大井 雄一 大谷 保和 大熊 由紀子
北 麻希子 笹原 信一郎 白木 孝二 辻井 弘美
竹端 寛 西村 秋生 福井 里江 三ツ井 直子
宮本 有紀 向谷地 生良 村井 美和子 森田 展彰
矢原 隆行 森川 すいめい 山田成志 渡邊 乾

【事務局長】時盛 昌幸

【名誉会員】Tom Erik Arnkil Jaakko Seikkula

2020 年度

【共同代表】石原 孝二 斎藤 環 高木 俊介

【運営委員】石橋 佐枝子 岩波 孝穂 植村 太郎
大井 雄一 大谷 保和 大熊 由紀子 北 麻希子
笹原 信一郎 白木 孝二 辻井 弘美 西村 秋生
福井 里江 三ツ井 直子 宮本 有紀 向谷地 生良
村井 美和子 森田 展彰 矢原 隆行 山田 成志
渡邊 乾

【事務局長】時盛昌幸

【名誉会員】Tom Erik Arnkil Jaakko Seikkula

2021 年度

【共同代表】石原 孝二 齋藤 環 高木 俊介

【運営委員】石橋 佐枝子 植村 太郎 大井 雄一
大谷 保和 大熊 由紀子 河上 真人 笹原 信一郎
白木 孝二 西村 秋生 福井 里江 三ツ井 直子
宮本 有紀 向谷地 生良 村上 純一 村井 美和子
森田 展彰 山田 成志 渡邊 乾

【事務局長】未定 (代行 = 石原孝二)

【名誉会員】Tom Erik Arnkil Jaakko Seikkula

04 沿革

2015 年 3 月 30 日	オープンダイアログ研究連絡会議開催 (ネットワーク発足)
2015 年 9 月 1 日・2 日	ケロプダス病院視察
2015 年 9 月 5 日	(暫定) 代表選出 (齋藤環)
2015 年 11 月 29 日・12 月 1 日	オープンダイアログセミナー (東京、大阪) 開催
2016 年 5 月 13 日～15 日	オープンダイアログワークショップ (東京) 開催
2016 年 6 月 18 日	第 1 回総会 共同代表・運営委員・事務局長選出、規約案検討
2016 年 7 月 9 日	規約制定
2017 年 5 月～11 月	第一期基礎トレーニングコース (ダイアログ実践の基礎コース) 開催
2017 年 6 月 18 日	第 2 回総会
2018 年 3 月	ODNJP 対話実践のガイドライン公開
2018 年 5 月 27 日	第 3 回総会
2019 年 5 月～	第二期オープンダイアログトレーニング基礎コース開催
2019 年 6 月 2 日	第 4 回総会
2020 年 7 月 5 日	第 5 回総会
2021 年 3 月～	第三期オープンダイアログトレーニング基礎コース開催

05

総会報告

2019 年度総会

【日程】2019 年 6 月 2 日

【場所】東京大学本郷キャンパス

第 4 回総会となる 2019 年度総会は東京大学本郷キャンパスの医学部教育研究棟鉄門記念講堂で開催されました。

活動報告：以下の活動について報告され、承認されました。2018 年度総会記念イベント（分科会 1：オープンダイアログ入門、分科会 2：オープンダイアログの世界観、分科会 3：オープンダイアログ対話実践のガイドラインワークショップ）、会報 No.2 作成、リカバリーフォーラム分科会 9：オープンダイアログ～7 原則のレクチャーと対話実践のワーク～、シンポジウム：オープンダイアログと中動態の世界、オープンダイアログトレーニング基礎コース（第 2 期）募集、オープンダイアログトレーニング基礎コース（第 1 期）フォローアップコース（FoO ワーク）、第 3 回オープンダイアログ／対話実践の報告会、Open Dialogue World Conference（※公益財団法人青少年健康センターとの共催）。

会計報告：資料にもとづき、事務局から報告が行われ、承認されました。

運営委員選出：2018 年度運営委員会から提案されたリストに基づき、2019 年度の運営委員が選出されました。

活動計画：以下の通り、2019 年度の活動計画が提案され、承認されました。オープンダイアログトレーニング基礎コース（第 2 期）実施（2019 年 5 月～2020 年 3 月予定）、総会記念イベント（ダイアログ I：不確実性への耐性、ダイアログ II：オープンダイアログを日本に広める）、オープンダイアログ入門：講演とワークショップ in 新潟、ケロプダス病院スタッフによる講演会、オープンダイアログトレーニング基礎コース（第 3 期）募集開始、3Days ワークショップ、1 Day ワークショップ、シンポジウム、講演会、セミナー、実践報告会、会報 No.3 作成、ロゴ作成

規約改正：役員の選出方法などを変更しました。（共同代表、事務局長は運営委員の互選により選出することとしました。）

会員現況：2019 年 6 月 1 日現在において、正会員＝260 名、賛助会員＝48 名（計 308 名）であることが報告されました。

文責 石原 孝二

2020 年度総会

【日程】2020 年 7 月 5 日

【場所】オンライン開催（Zoom）

2020 年度総会はコロナ禍のため、オンラインでの開催となりました。

活動報告：以下の活動について報告され、承認されました。総会、運営委員会（6 回）、トレーニング委員会（月 1 回程度）、総会記念イベント（ダイアログ I：不確実性への耐性、ダイアログ II：オープンダイアログを日本に広める）、2019 年度（第 2 期）オープンダイアログ基礎トレーニングコース、3 Day ワークショップ（東京、大阪、花巻、福岡、東京で開催）、オープンダイアログ入門：講演とワークショップ in 新潟、オープンダイアログセミナー：OD の研究と経験専門家、シンポジウム「対話の現象学と人類学」、フォローアップイベント「リフレクティングワークショップ」（トレーニング基礎コース修了者、3 Days ワークショップ修了者対象）。

会計報告：資料にもとづき、事務局から報告が行われ、承認されました。

運営委員選出：2019 年度運営委員会から提案されたリストに基づき、2020 年度の運営委員が選出されました。

活動計画：第 3 期のオープンダイアログ基礎トレーニングコース（2020 年 4 月開始予定）がコロナ禍のため、開始が 2021 年 3 月に延期されたことや、オンラインイベントやシンポジウムなどが計画されていることが報告され、承認されました。

会員現況：2020 年 6 月 28 日現在において、正会員＝404 名、賛助会員＝53 名（計 457 名）であることが報告されました。

文責 石原 孝二

06 運営委員会報告

2019 年度

2019 年 8 月 22 日

2019 年 8 月に東京で行われた 3DAYS ワークショップの報告を行った。2019 年 12 月のシンポジウムについて、開催日時・登壇者・プログラムを決定した。2019 年度の運営委員会は 2 ヶ月に一度のペースで、ZOOM にて行うことになった。

2019 年 10 月 24 日

12 月に開催されるシンポジウム（「対話の現象学と人類学」）の申し込み状況を確認し、打ち合わせを行った。第二期トレーニング基礎コースの第二ブロックと 3DAYS ワークショップについて報告を行い、第三期トレーニングコースの申し込み状況を確認した。

2019 年 12 月 1 日

シンポジウムの前に開催され、最終の打ち合わせが行われた。また、第三期トレーニング基礎コースの応募状況が共有された。

2020 年 2 月 27 日

新型コロナウイルスの感染拡大により、3 月に開催予定であった第二期トレーニング基礎コースの最終ブロックと、4 月に開催予定であった第三期トレーニング基礎コースの第一ブロックの開催が危ぶまれる状況となった。3 月の第二期コースの延期が決定され、4 月の第三期コースは引き続き状況を注視していくこととなった。また、4 月より運営委員による「ODNJP の未来について語る会」を行うことが決定された。

2020 年 4 月 23 日・6 月 3 日

2020 年度の総会日程を決定した。ODNJP としては初の試みであるオンライン開催となった。また、役員の変更や運営委員の謝金規定について議論を行った。

2020 年度

2020 年 7 月 19 日

総会の前に開催され、最終の打ち合わせが行われた。

2020 年 8 月 15 日

今後の ODNJP 主催イベントについての情報が共有された。また、各地の取り組みを促進するための「ネットワーク委員会」の発足が提案され、承認された。

2020 年 9 月 26 日

9 月 13 日に開催された「オープンダイアログをめぐるミアさんカリさんとの対話」の報告が行われ、12 月 27 日に開催予定の「シンポジウム「対話・会話・コミュニケーション」の打ち合わせが行われた。トレーニング基礎コースのサポートメンバー募集が承認された。

2020 年 11 月 8 日

12 月のイベントについての打ち合わせを行なった。また、新しいイベント企画について議論が行われた。

2020 年 12 月 27 日

延期となっていた第三期トレーニング基礎コースについて、最終的な参加メンバーが確定し報告が行われた。今後の事務局の体制について議論が行われた。

2021 年 1 月 24 日・2 月 21 日

「プライバシーポリシー及びイベント参加にあたってのお願い」の制作が検討された。2021 年度総会と総会記念イベントの開催日程が確認された。

2021 年 3 月 21 日・4 月 25 日

運営委員会の選出方法が議論された。総会記念イベントについて、ネットワーク委員会からの提案が行われ承認された。

2021 年 5 月 23 日

ワーキンググループにより運営委員会の選出方法が提案され承認された。ネットワーク委員会より総会記念イベントの詳細が提案され、今後の具体的な進捗が決定した。会報 No.3 の制作が決定した。

07

主催イベント報告

ODNJP シンポジウム

オープンダイアログと中動態の世界

【日程】2018年9月23日

【場所】東京大学駒場Iキャンパス

【講師】國分功一郎、齋藤環、高木俊介、石原孝二

本シンポジウムは哲学者の國分功一郎氏を迎え、氏が著書『中動態の世界 医師と責任の考古学』（医学書院）で紹介した「中動態」概念とオープンダイアログの関係について共同代表の石原、高木、齋藤が登壇して意見交換を行った。國分によれば「中動態は能動態と受動態の中間」ではなく、歴史的には「能動態と中動態」という対があり、途中から勢力を増してきた「受動態」が中動態に取って代わった、とのことである。行為が自分の外で完結するのが能動態で、「欲する」のように、行為の過程の場所が自分の中にあるのが中動態である。「能動—中動」の対立から、「能動—受動」の対立への移行は、行為が主体に帰属するという意味での「意志」の概念を生み出した。しかし、行為の背後に常に「意志」を想定する考え方はきわめて新自由主義的である。こうした視点から國分は、支援現場で言われる「意志決定支援」という言葉に違和感を表明し、むしろ中動態的な「欲望形成支援」を重視すべきである、という重要な指摘を行った。すでに医療に限らず対人援助に関わる領域で広く読まれている本の著者の登壇とあって、多くの聴衆が参加し、活発な討論が交わされた。

文責 齋藤 環

第3回オープンダイアログ

対話的实践の報告会

【日程】2018年12月9日

【場所】東京大学本郷キャンパス

【講師】基調ダイアログ 語り手：野村直樹、森川すいめい 聞き手：矢原隆行

第3回目の実践報告会となる今回は、「オープンダイアログの実践とは何か？」というテーマを掲げ、三者による基調ダイアログからスタートした。もちろん、事前の準備や打ち合わせはなし。「3人なのでトライアログでもいいし、そうでなくてもいいし…」と矢原から投げかけると、「OD 実践では3人がいいと言われているけれど、そのあたりを…」と森川が応答しつつ問いを置き、「ファミリーセラピーの歴史がワンウェイミラーからスタートし…」と野村がその文脈を振り返りつつ新鮮な視野を開いてゆく。

つづく実践報告では、「その人が生きている世界を語ることばを、私たちはどう聞くのか？～日々の訪問看護でのかかわりを振り返って」との演題で、訪問看護ステーション KAZOC のメンバー（演題1）、「オープンダイアログとハウジングファースト」との演題で、ゆうりんクリニックのメンバー（演題2）、「障害者就労移行支援事業所におけるオープンダイアログの実施とその効果について」との演題で、齋藤と LITALICO 研究所のメンバー（演題3）、「ACTIPS における経験専門家プロジェクトについて」との演題で、リカバリーサポートセンター ACTIPS のメンバー（演題4）、「地域で幻聴と共に生きる男性と関わる支援者チームの未来語りのダイアログとオープンダイアログのミックスメソッド事例」との演題で、トレーニングコースのスタディグループのメンバー（演題5）がそれぞれに多彩な報告を行った。その後、フロアでの小グループの会話、全体でのシェア、さらに実践報告者によるリフレクティング、基調ダイアログの三者によるリフレクティングを経て、最後に実践報告者のコメント、と会話は重ねられていった。振り返って、いま筆者に思い浮かぶのは、野村の「Open Dialogue の Open は形容詞でなく動詞」ということば。そして、あの場で3の意味を思い出したこと。

文責 矢原 隆行

Open Dialogue World Conference

2019 年度 総会記念イベント

東京開催

【日程】2019 年 2 月 3 日

【場所】東京大学本郷キャンパス

京都開催

【日程】2019 年 2 月 9 日

【場所】龍谷大学 アバンティ響都ホール

【講師】斎藤 環, 向谷地 生良 (日本)、Douglas Ziedonis, Mary Olson (米国)、Mark Steven Hopfenbeck (ノルウェー)、Shi-Jiuan Wu (台湾)

東京と京都と 2ヶ所で開催し、およそ 600 名にご参加いただきました。本事業は、公益社団法人青少年健康センターが助成を得た「2018 年度年賀寄附金配分事業」を活用し、ODNJP との共催により実施されました。本イベントは、オープンダイアログを実施する 4 か国から多様な実践家を講師として招聘し、明日から実践可能な「対話」のヒントを探ることをテーマに開催されました。参加者アンケートでは、概ね高い評価が得られましたが、今後に向けては各論にテーマを絞った講演会や、対話実践の実際を学ぶ体験型のワークショップ等の開催への要望が寄せられました。限られた準備期間において、講師交渉、会場手配、広報活動、当日運営等、多くの方々に多岐にわたるご協力を頂きました。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

文責 時盛 昌幸

【日程】2019 年 6 月 2 日

【場所】東京大学本郷キャンパス

2019 年は、参加者に地域ごとに着席していただき、OD を広める出会いの場と対話のスペースとなるよう企画しました。

I. 不確実性への耐性 (斎藤環、村井美和子、西村秋生、石原孝二)

対話とは、妥協や調和を目指した『すり合わせ』ではなく、違いを掘り下げる過程であり、違いに「もやもや」を感じ、綺麗に終わらせたくなくてもそれに耐える、中途半端さが事態を進めることにもつながるなど、それぞれの体験を元に語られました。日々の実践で、果たしてこれでいいのかと感じた体験を持つ多くの支援者にとって、勇気づけられ、道しるべとなったように感じました。

II. オープンダイアログを日本に広める (高木俊介、石川真紀、森田展彰、石橋佐枝子)

高木さんの「ACT を初めて 16 年経つが日本の精神医療を変えられていない、敗北した」との声に対し、「ACT の取り組みは、どの看護の教科書にも記載され、地域移行の原動力、リカバリー志向につながっている」「各地域で動きは出ている、不確実性に耐える経験をしたい」「当事者がいる場で決めることを徹底すればだいぶ変わると思う」等の意見が聞かれました。OD を一過性のブーム、声を挙げるだけで終わらせず、声を聴く「耳」を変える＝地域が変わることを目指したい、という高木さんの声に、会場からも様々な応答がなされ、刺激的なセッションになったように感じました。

文責 石橋 佐枝子

ODNJP オープンダイアログ入門 講演とワークショップ

【日程】2019 年 6 月 22 日

【場所】新潟ユニゾンプラザ大研修室

【講師】斎藤環、高木俊介、石原孝二、伊藤順一郎

2019 年 6 月 18 日夜、山形県沖地震が発生、新潟市は震度 6 の揺れを企画した。奇しくも 20 日から新潟市で開催されることになっていた第 115 回日本精神神経学会学術総会は、地震の直後の緊張感の中で決行された。幸い余震が起こることもなく、学会は無事終了した。その学会の最終日の午後に ODNJP によるワークショップ「オープンダイアログ入門」を行った。

共同代表の三人に、実践者として地域医療を行っている精神科クリニックしっぽふあーれの伊藤順一郎に参加してもらった。学会の最終日、土曜日の午後で、会場も学会会場からは離れた場所であるという悪条件にもかかわらず、60 名程度の参加者を得た。但し、学会に参加した精神科医の参加は少なく、多くは新潟近辺のオープンダイアログに関心をもっている精神科医療コメディカルスタッフ、地域精神医療・福祉・保健関係者、当事者と家族であった。学会はテーマとして脳還元主義に陥らない人間の全体像を追求すると謳っているが、学会の中味もまた多くの精神科医の関心もそれには到底及ばなかったように見える。

セッションは、斎藤によるオープンダイアログの概要説明のあと、ワークショップを中心におこなわれ、聴講者を交えたロールプレイが行われた。はじめてであるにもかかわらず、当事者と当事者家族の方もロールプレイに加わっていただけで迫真のプレイとなった。むしろ我々 ODNJP メンバーのほうが、まだぎこちないのも愛嬌といったところだろうか。参加者の方々の関心の深さと熱意がうかがわれたセッションであった。

私個人の感想であるが、第一期トレーニングコースを受けた伊藤氏の、常に一拍間を保った息の深い語り口が、それ以前のスーパーバイザーとしての氏を知っているだけに、そこからの変化を遂げてダイアロジカルな雰囲気をも身につけられていることに驚かされたことをここに記しておきたい。

文責 高木 俊介

ODNJP オープンダイアログセミナー OD の研究と経験専門家

ODNJP Open Dialogue Seminar: OD Research and Activity of Experience Specialists

【日程】2019 年 7 月 23 日

【場所】東京大学駒場 I キャンパス

【講師】Tomi Bergström, Tiia Törmänen

西ラップランド医療区の心理士 Tomi Bergström さんと経験専門家 Tiia Törmänen さんをお呼びして、セミナーを開催しました。西ラップランド地方では 1980 年代から継続的に研究が行われ、そうした研究の中からオープンダイアログが生み出されてきました。Bergström さんは、若手の心理士ですが、2017 年以降、ODLONG（オープンダイアログの長期的効果に関する研究）の成果を筆頭著者として発表するなど、現在の研究の中心を担っています。Bergström さんには、ODLONG を含めた研究の歴史と現状についてお話しいただきました。Tiia Törmänen さんには「経験専門家」としての活動についてお話しいただきました。フィンランドでは、(元) サービスユーザーの方が、「経験専門家」として活動されています。西ラップランド医療区でも、数名の方が経験活動されているとのことでしたが、Törmänen さんには経験専門家としての活動の難しさや意義などについて、個人的な経験を交えて語っていただきました。

文責 石原 孝二



ODNJP シンポジウム 対話の現象学と人類学

2020 年度 総会記念イベント

【日程】2019 年 12 月 1 日

【場所】東京大学本郷キャンパス

【講師】北中淳子、東畑開人、村上靖彦、斎藤環

ODNJP では、年に 1 回程度、他分野で活躍されている方をお呼びしてシンポジウム行っています。今回のシンポジウムは、「対話の現象学と人類学」というタイトルで、看護や子育て支援などの領域において現象学的な研究をされている村上靖彦さん、臨床心理学が専門で医療人類学の研究もされている東畑開人さん、うつ病や認知症に関する医療人類学的な研究をされている北中淳子さん、そして ODNJP から斎藤環さんをパネリストとしてお呼びしました。それぞれの分野において、ユニークな研究を展開されている方たちで、パネリストによる最初の話題提供は聞きごたえがありました。討論では石原も参加させていただきましたが、異なった専門領域を背景に、「オープンダイアログ」とは何か、「対話」とは何かなどをテーマに、ポリフォニックに語る場になったのではないかと思います。

文責 石原孝二



【日程】2020 年 7 月 5 日

【場所】オンライン開催 (Zoom)

例年総会の後の時間に企画されているイベント、2020 年度は新型コロナへの感染防止を目的としてオンラインでの開催となりました。初めての試みであるにもかかわらず、大きなトラブルもなく、またとても多くの方々のご参加を頂き、大変有意義なイベントとなりました。

今回は以下の二つのトピックについて、語り合いがありました。

I. ヘルシンキ OD トレーナーズトレーニング体験・鼎談 (大井雄一、辻井弘美、森川すいめい)

オープンダイアログ発祥の地フィンランドはヘルシンキで開催されている、オープンダイアログトレーナーを育成するためのトレーニングコースを修了された、大井雄一さん、森川すいめいさん、辻井弘美さんのお三方に、トレーニングを終えての感想と、これからの日本でそのご経験をどのような形で生かしていけるのか、などについて、ざっくばらんに語って頂きました。オープンダイアログが、常に進化し、多様化し続けていること、日本での試みもまだまだこれからだと言うことが感じられ、ワクワクする時間でした。

II. オンラインにおける対話実践の可能性 (大井雄一、斎藤環、西村秋生、矢原隆行)

2020 年突如として私たちを襲った新型コロナによりクローズアップされたオンライン。そこでの対話実践について、斎藤環さん、大井雄一さん、矢原隆行さんに西村も加えて頂いて、それぞれの試行錯誤や想いを語った後、参加者皆様からも声を上げて頂き、将来への展望を共有しました。それ自体がオンラインで、という挑戦的な試みでしたが、やむを得ずとられる手段と言うことばかりでなく、オンラインならではの利点なども垣間見え、刺激的なセッションではなかったかと思います。

文責 西村 秋生

オンラインシンポジウム オープンダイアログをめぐる ミアさんカリさんとの対話

【日程】2020 年 9 月 13 日
【場所】オンライン開催 (Zoom)
【講師】Kari Valtanen, Mia Kurtti

ODNJP のトレーニング基礎コースでも講師をお願いしているミアさんとカリさんのお二人による、オンライン形式のシンポジウムでした。今回は全体を 2 部に分け、第 1 部をミアさんカリさんの講演、第 2 部を分科会形式として、参加者の方からあらかじめテーマとして話し合いたいことについての声を集め、そこから 8 つの部屋を作って、部屋ごとに話し合う時間を取りました。

具体的には、1. 対話的な働き方をどのように始めるか 2. 対話におけるオンラインの可能性と障壁 3. 対話を生み出すことの課題は何か 4. 日本のコンテクストで対話的な実践をどのように促進するか 5. ヒエラルキー的な構造のなかでも、対話的な実践を導入する可能性について 6. 家族の声、特に子供の声を含めるにはどうするか 7. リフレクティングを用いて良かった経験・課題となりうる点 8. 日本でのオープンダイアログに関する研究、に分かれ、最後にまた全員で同じ部屋に参加して感想をシェアして終了となりました。

オンライン形式での分科会をはじめでしたが、参加者の皆さんやスタッフの方々の協力もあり、全体的にはとてもスムーズに進み、オンラインイベントの可能性を広げる機会となりました。またミアさん・カリさんが講演で、対話に重要なことについて話した際、ケロプダス病院で OD の実践と研究に従事してきた心理士であり、最近亡くなられたカウコ・ハーラカンガスさんのことを思い出しながら語られる姿も印象的でした。講演の中での「絶対的な真実を知っている人は誰もいない。わからなくてもそれでもいい。そこで話す人たちと一緒に新しい現実を創り上げていくのだから」という言葉にも励まされました。

文責 大谷 保和

オンラインシンポジウム 対話・会話・コミュニケーション

【日程】2020 年 12 月 27 日
【場所】オンライン開催 (Zoom)
【講師】平田オリザ

現代口語演劇理論の提唱者であり「静かな演劇」を定着させた劇作家にして演出家の平田オリザさんによる、演劇で培ったコミュニケーション理論と対話についてのオンライン講演です。

講演の概要は以下の通りです。「どんなときなら話しかけますか？」というケースの考察から話は始まります。他文化の人たちとコミュニケーションを取る際、背後にあるコンテクストを踏まえずに意図を読み取ることがいかに難しいか、そしてコンテクストのずれを埋めるには何が必要か語られます。特に「言わずとも察し合う」文化でハイコンテクストな社会を築いてきた日本人にとっては、会話よりも対話、すなわち価値観の違う人達との考え方のすり合わせが重要であり、その中では相手が何を大切にだと考えているかを知ること（講演者いわく「エンパシー」）が求められます。これを育てるのが芸術の役割であり、特に「主体的に他者を演じる」ことが効果的であると結ばれます。

長年の演劇経験から生まれたコミュニケーション論が、わたしたちが実践している精神医療の現場で取り組んでいるダイアログと、重要な部分で重なりがあるように思えたのが興味深かったです。特に「コミュニケーションは相手に同一化するものでないことを前提に行っていく必要がある」という言葉が印象的で、「ダイアログがめざすのはシンフォニーではなくポリフォニー」という OD でよく出てくる言葉が浮かんできました。

文責 大谷 保和

08

トレーニングコース、フォローアップコース (イベント)、ワークショップ

オープンダイアログフォローアップ コース：Family of Origin コース

【日程】2018 年 10 月 5～7 日/12 日～14 日

【場所】東京大学駒場 I キャンパス

【講師】Kari Valtanen、Mia Kurtti

OD のトレーニングにおいて重要な意味を持つが、2017 年トレーニングコースでは十分に行うことが出来なかった、Family of Origin (FoO) ワークをフォローアップコースで行った。2017 年コース修了者から 37 名が参加し、講師も同様に Miaさんと Kariさんが務めてくれた。ワークは 6 グループに分かれ、各グループにはファシリテーターが 1 人もしくは 2 人置かれた。グループ内で事前に準備していた家系図を共有しながらファシリテーターとともに自身のリソースや物語を話し、リフレクティングを受け応答される。一人 90 分、各グループ内で参加者全員が行なった。

FoO ワークによる変化は自身のリソースや物語に注目したり新たな視点を得ることではなかった。私自身印象的であったのは共にワークを行なったチームが自分にとってより安心・安全を感じられるチームになれたことに思う。FoO ワークは治療チームのネットワーク作りにとっても有用であると体験出来た。ほとんどの職員がトレーナーの過程でこのプロセスを経ているケロプタス病院には改めて感服する。2018 年から行われているトレーニング基礎コースには既に FoO ワークが組み込まれている。

文責 岩波 孝穂

2019 年度オープンダイアログ トレーニング基礎コース (第二期)

【日程】

第 1 ブロック

2019 年 5 月 3 日～5 日、10～12 日

大田区産業プラザ Pio、TKP スター貸会議室大森

第 2 ブロック

2019 年 9 月 20 日～22 日、27 日～29 日

大田区産業プラザ Pio

第 3 ブロック

2019 年 12 月 6 日～8 日、13 日～15 日

アットビジネスセンター池袋別館、東京大学駒場 I キャンパス

第 4 ブロック

2020 年 11 月 20 日～22 日、27 日～29 日

オンライン開催 (Zoom)

※本来は 2020 年 3 月 20 日～22 日、27 日～29 日に東京大学駒場 I キャンパスにて開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により延期となった。

【講師】

Kari Vartanen, Mia Kurtti

【受講者数】42 名

【受講者職種】医師 15 名、看護師 13 名、作業療法士 3 名、精神保健福祉士 8 名、心理士 3 名

【コース総時間】計 134 時間

総時間数の 80%以上の出席を要件とし、修了証を発行。受講生 42 名全員が上記要件を満たし、修了。

第二回目となるオープンダイアログトレーニング基礎コース 2019 は、日本各地から 42 名の受講生をお迎えし、ファミリー・オブ・オリジンを含む、レクチャー・ワーク・ロールプレイ・スーパーヴィジョン (オプション) を通じて、体験的にオープンダイアログへの理解を深め、実践のためのトレーニングを積むことを目指して開催された。1 年間のコースとして計画していたが、最終ブロックが新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2020 年 3 月から 2020 年 11 月までコース日程を延期さざるを得ない状況となり、フィンランドと日本をつなぎ、Zoom を活用したオンライン上で最終ブロックは行われた。時差の関係から、受講生に大きな負担をおかけしてしまうのではないかと心配しながら迎えた、学びの集大成ともいえる Harvesting Feast (収穫祭) では、様々な工夫が散りばめられ、創造的に学んでこられた受講生の学びの体験が共有された。オープンダイアログ基礎トレーニングコースの修了生は 82 名となり、現在は第三回目となるトレーニングが進行中である。

文責 三ツ井 直子

3DAYS ワークショップ

関東／東京

【日程】2019 年 8 月 2 日～4 日

【場所】アットビジネスセンター池袋駅前別館

【講師】石原孝二、岩本雄次、斎藤環、西村秋生、福井里江、三ツ井直子、村井美和子

関西／大阪

【日程】2019 年 9 月 14 日～16 日

【場所】アットビジネスセンター大阪本町

【講師】石橋佐枝子、石原孝二、植村太郎、高木俊介、三ツ井直子

岩手

【日程】2019 年 10 月 12 日～14 日

【場所】国立病院機構花巻病院

【講師】石原孝二、斎藤環（14 日のみ）、西村秋生、三ツ井直子、村井美和子

福岡

【日程】2019 年 12 月 20 日～22 日

【場所】国際医療福祉大学福岡キャンパス

【講師】矢原隆行、石原孝二、石橋佐枝子、岩本雄次

関東

【日程】2020 年 1 月 10 日～12 日

【場所】アットビジネスセンター東京八重洲通り

【講師】石原孝二、岩波孝穂、福井里江、村井美和子、山田成志

関西（未開催：新型コロナウイルスの影響により延期となりました）

【日程】2020 年 3 月 6 日～8 日

【場所】琵琶湖病院

【講師】石原孝二、石橋佐枝子、植村太郎、西村秋生

2019 年 8 月から 2020 年 1 月にかけて、3Days ワークショップを様々な都市で開催しました。このワークショップはオープンダイアログの導入的なワークショップとして、3 日間のレクチャーとワークを通じてオープンダイアログの基本的な考え方と態度を集中的に学ぶことを目的としたものでした。ODNJP で行っているオープンダイアログ基礎トレーニングコースは、週末の 3 日間（金曜日夜、土・日）を 8 回繰り返すという構成になっています。本ワークショップは、基礎トレーニングコースの一週末をイメージしながら企画されました。各会場は 40 人定員としましたが、いずれの会場もすぐに定員が埋まってしまい、需要の高さを感じました。花巻では国立病院機構花巻病院を会場とし、花巻病院のスタッフの方を交えてワークショップを行いました。2020 年 3 月にも琵琶湖病院を会場としてワークショップを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、現在にいたるまで延期となっています。再開できる日が早く来ることを願っています。

文責 石原孝二

オープンダイアローグトレーニング 基礎コース修了生のためのイベント ミアさんカリさんと深める オープンダイアローグ

【日程】2021 年 3 月 20 日、21 日、27 日、28 日
 【場所】オンライン開催 (Zoom)
 【講師】Kari Vartanen, Mia Kurtti
 【通訳】森下圭子
 【参加者】オープンダイアローグ基礎コース第一期・二期修了生

ODNJP では、これまで二期にわたってオープンダイアローグ基礎コース修了生を輩出してきました。フィンランド講師から直接受け取ったダイアローグの種を、日本の土壌で、それぞれがその後どのように育ててきたのか。コロナ禍で世界が一変した今、改めてミアさん、カリさんと一緒に学びを深めたいという思いで開催しました。初めての一期二期修了生合同の学びの場であり、オンライン開催ということもあり、どのくらいの方がご参加くださるか不安でしたが、各期 21 名、計 42 名の方が参加してくださいました。事前アンケートでいただいた多種多様なご要望をもとに、ミアさん、カリさんが豊富なプログラムを提案していただき充実した 4 日間となりました。初めての試みに、運営側として多くの反省点や改善すべき点がありつつも「オンラインでもダイアロジカルな体験、学びは可能だと希望を感じた」という声も多くいただきました。発展的な学びの場、ネットワークの拡充を目指し、こうした機会を継続的に設けていく重要性を強く感じました。

文責 村井 美和子

2021 年度オープンダイアローグ トレーニング基礎コース (第二期)

【日程】
 第 1 ブロック
 2021 年 3 月 5 日～7 日、12～14 日
 オンライン開催 (Zoom)
 第 2 ブロック
 2021 年 8 月 21 日～23 日、28 日～30 日
 オンライン開催 (Zoom)
 第 3 ブロック
 2021 年 10 月 1 日～3 日、8 日～10 日
 第 4 ブロック
 2022 年 1 月 28 日～30 日、4 日～6 日
 【講師】Kari Vartanen, Mia Kurtti
 【受講者数】36 名

2021 年 4 月、第 3 期の基礎コースが始まりました。2022 年 2 月まで、全 4 ブロック、計 136 時間からなるコースです。34 名の受講者と共に第 1 ブロックが無事終了しています。今期は Covid-19 の影響でオンラインでのスタートとなりましたが、受講生の方からは深い学びを得ることができたとの声が多く届いています。今回は、第 2 期までのトレーナーであるカリ・ヴァルタネン氏、ミア・クルッティ氏に加え、日本人トレーナーとして森川すいめい氏と筆者が加わり、トレーナー 4 名体制となりました。コース内容をオーガナイズする中では、これまでのコース内容を踏襲していく一方、日本の中で重要と考えられることも柔軟に取り入れていく作業を続け、工夫と更新を重ねています。これからさらにどんな経験を受講生の皆さんと共に重ねていけるのか、今後も楽しみにしています。

文責 大井 雄一

09

人権とリカバリーを促進するアプローチ としてのオープンダイアログ (WHO Guidance on community mental health service について)

石原孝二

2021 年 5 月、WHO (世界保健機関) の地域精神保健サービスに関するガイダンス「地域精神保健サービスに関するガイダンス：人間中心の、権利に基づくアプローチの促進」(Guidance on community mental health services: Promoting person-centred and rights-based approaches) が発表されました。このガイダンスで、「権利とリカバリーを促進するグッドプラクシスの 1 つとして、オープンダイアログが紹介されています。

本ガイダンスは、障害を持つ人の権利に関する条約 (The Convention on the Rights of Persons with Disabilities, 2006. 以下「権利条約」) などの国際的な人権基準に沿った精神保健システムとサービス提供を促進するために作成されました。権利条約は、障害をもつ人がすべての人権と基本的自由を享受できるように保障することを締約国に求めています。WHO のこのガイダンスでは、人権に基づく精神保健のアプローチの実現を阻むものとして、リソースの不足や時代遅れの法規制のほか、(診断と薬物療法、そして症状の削減を重視する) 「生物医学モデル」への過度の依存が挙げられています。権利条約の実現のためには、薬物療法を中心とする生物医学モデルから、人間を中心に据えた、人権に基づいたアプローチへと移行し、地域精神保健サービスのネットワークを拡大していく必要がある、というのが本ガイダンスのメッセージです。また本ガイダンスでは、主要な人権の原則として、1. 法的な能力の尊重 (自己決定の尊重)、2. 非強制的であること (non-coercive practice)、3. (障害を持つ人の) 参加、4. 地域への包摂、5. リカバリー・アプローチが挙げられています。

「グッドプラクシス」の選定にあたってこの 5 つの視点から評価が行われました。文献調査やインターネット調査などを通じてピックアップされた 1,197 の候補から、数度にわたるスクリーニングを経て、オープンダイアログを含む 22 の実践がグッドプラクシスとして選定されています。候補の収集において、英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語のみが使用されたことなどの制限はありますが、広範なサーベイと慎重なスクリーニングを経てオープンダイアログが選定されたことの意味は決して小さくはありません。他方でまた、グッドプラクシスとして取り上げら

れた実践のどれもが、権利条約に「完全に沿ったものではなく、すべてに改良の余地がある」とされていることにも注意を払うべきでしょう。

グッドプラクシスは、6 つのセクションに分かれています。オープンダイアログは、クライシス対応サービス (mental health crisis service) のセクションに入っています。即時援助、柔軟性、機動性、透明性といったオープンダイアログの基本的な特徴が説明されているほか、一回のミーティングのコスト (130～400 ユーロ、ただしユーザーの負担なし) や危機対応チームの構成 (看護師 16 人、ソーシャルワーカー、精神科医、心理士、作業療法士、秘書) などについても触れられています。また、5 つの主要な人権の原則の視点からの特徴づけが行われ、例えば「法的な能力の尊重」(自己決定の尊重) に関しては、サービスユーザーによって治療内容が決定されることや、すべての声が聴かれ、対話の中で治療計画が生じてくること、クライシス時における力の不均衡にチームが意識を向けることなどがオープンダイアログの特徴として挙げられています。

オープンダイアログの日本での普及を考える際に、診断と薬物治療を重視する生物医学的モデルから、人間を中心とし、人権にもとづくアプローチへの転換という大きな流れの中でオープンダイアログを捉えるということは、重要な視点なのではないかと考えています。

WHO. (2021). Guidance on community mental health services: Promoting person-centred and rights-based approaches.

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240025707>

※2021 年 6 月 10 日にオンラインで行われたガイダンスの発表イベントの様子が以下で公開されています。
https://www.youtube.com/watch?v=RI_Ad-Cfm_M&t=76s

10

オープンダイアログモデルのケア実践における精神科医の役割

カリ・ヴァルタネン

フィンランド西ラップランド医療区児童・青少年精神科医療サービス
ユヴァスキュラ大学（フィンランド、ユヴァスキュラ）

訳＝松本葉子・村上純一・石原孝二

Kari Valtanen. (2019). The Psychiatrist's Role in Implementing an Open Dialogue Model of Care. *Australian and New Zealand Journal of Family Therapy*, 40(3), 319-329.

※本翻訳の出版は John Wiley & Sons の許諾を得た。
なお許諾条件により、本会報オンライン版には本翻訳は含まれていない。

11

メッセージ

Since Open Dialogue was first introduced to Taiwan by Center for Creative Dialogue in 2015, it has gained very high interest from the related field, service community and related families. Jaakko Seikkula was invited by Center for Creative Dialogue to Taiwan for two times and he interviewed a few patients, their families and related system workers in the live workshop settings. The book "Open dialogue, anticipated dialogue" was translated into Chinese in 2016 which has helped to transmit the knowledge to the larger Chinese speaking community. Currently, PopularCrazy is the agency that totally devotes its training and practice in Open Dialogue and many volunteers also join PopularCrazy for providing the services to the community. Due to the pandemic, Shanghai postmodern Dialogue postponed the Open Dialogue training in 2020-2021 to later time. However, Jaakko Seikkula gratefully still conducted a two days online workshop in January, 2021 for Shanghai Postmodern Dialogue participants. Some local professors will join the training program to assist the program be more localized. Taiwan is still in the beginning of developing the utilization of Open Dialogue to the community. It does require more participation from the related community. We hope more patients, families, and related field can benefit from this respectfully unique services. Due to some restrain of the services structure in Taiwan, it might be hard for many psychiatrists to participate Open Dialogue practice in this moment. But we hope more non profit social welfare agencies will join this endeavor, so more people can access this kind of services.



Shi-Jiuan Wu (Executive Director/Center for Creative Dialogue/Trainer, Consultant, Supervisor)

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン

<https://www.opendialogue.jp>

ODNJP 会報 No.3

2021.7.21 発行

編集責任：笹原信一郎、大谷保和（ODNJP 広報委員）

編集：杉本光衣（事務局員）

《許可なく転載を禁じます》